

八王子千人同心日光往還ウオーク

第17回東松山東平バス停から吹上駅（計画）

集 合 東松山駅 改札口 9時20分

歩行距離 約11km

第17回東松山東平バス停から吹上駅

実施日 2023（令和5）年1月18日（水） 天候 快晴 一時 風強し

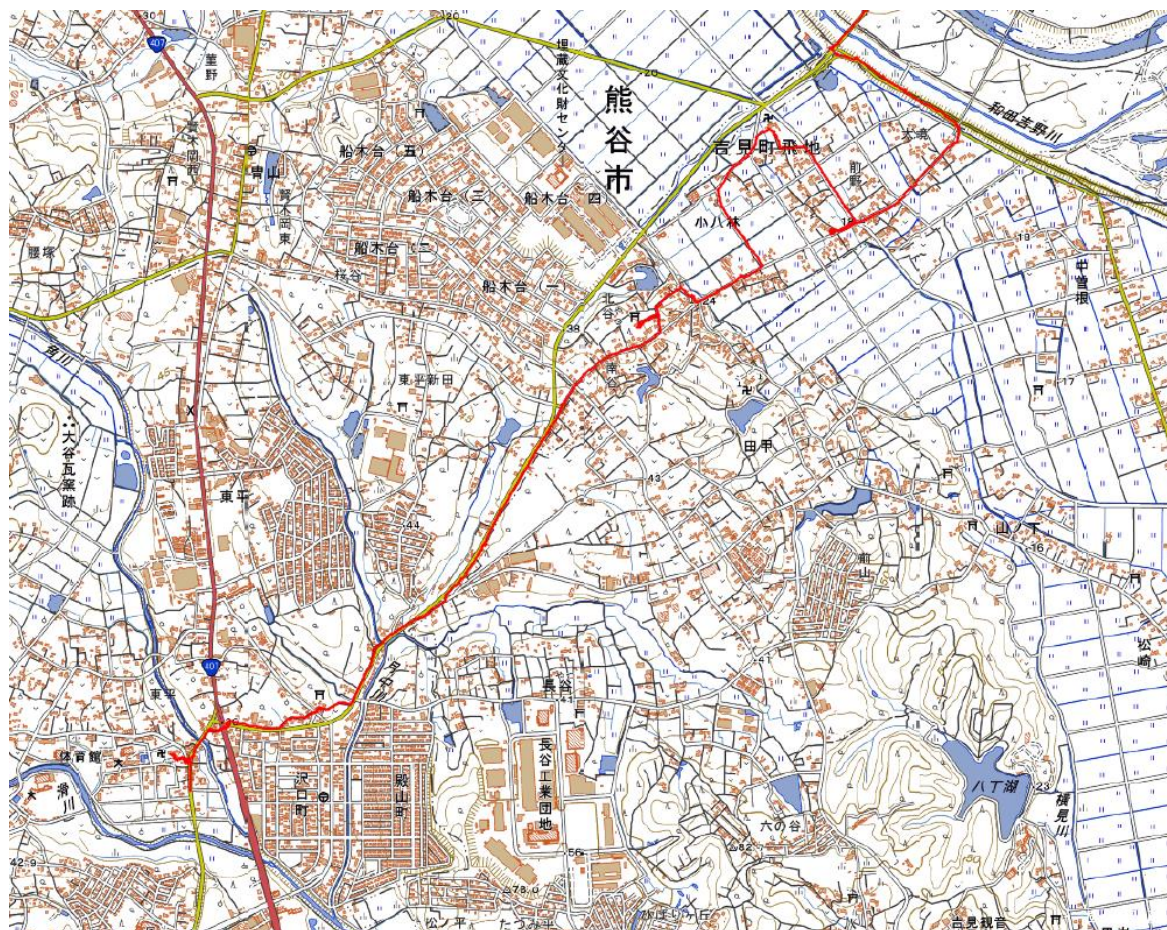
参加者 折本 文雄、前北 勝司、中田 信義、中島 征雄 計4名

コース 東松山駅東口バス停（国際十王交通バス）2番乗り場9：30熊谷駅行⇒9：41東平バス停  
～覚性寺・薬師堂～地蔵尊と馬頭観音（9：51）～国道407号線歩道橋～熊野神社（10：00～03）  
～馬頭観音道標（10：17）～馬頭観音～地蔵堂（10：28）～春日神社（10：37～51）  
～庚申塔～馬頭観音（10：55）～供養塔～大福寺（11：11）～昼食場所・ちゃよりあい（11：21～12：18）  
～水道管橋（12：26）～荒川・大芦橋（12：38～52）～賽ノ神石塔（13：02）～醫王寺（13：06）～庚申塔・一目連大神・稲荷神社（13：13）  
～庚申塔・賽神道標・日枝神社・道六神（13：19～22）～公園・休憩（13：28～35）  
～龍光寺～氷川神社（13：39～42）～秋池家舟板塀（13：51）～吹上駅（13：57）

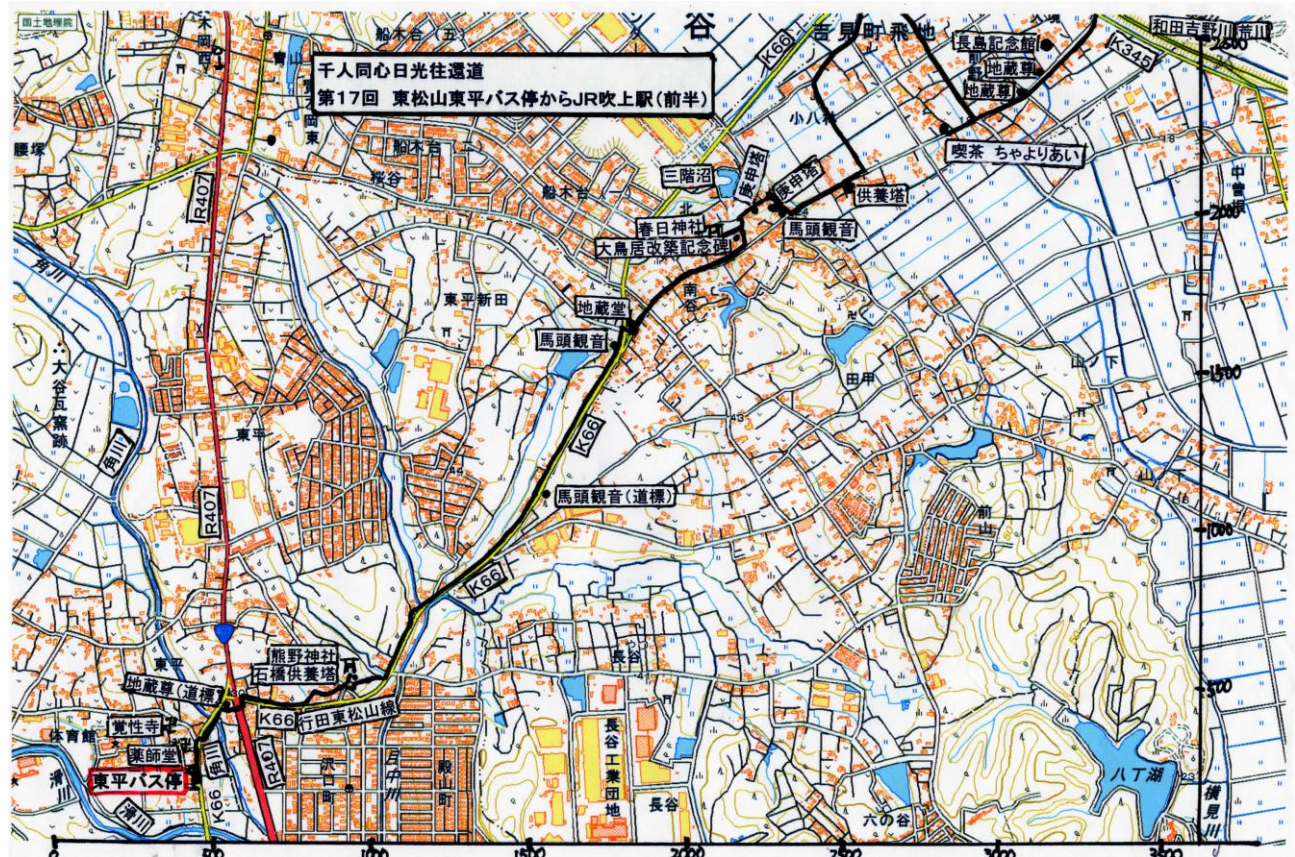
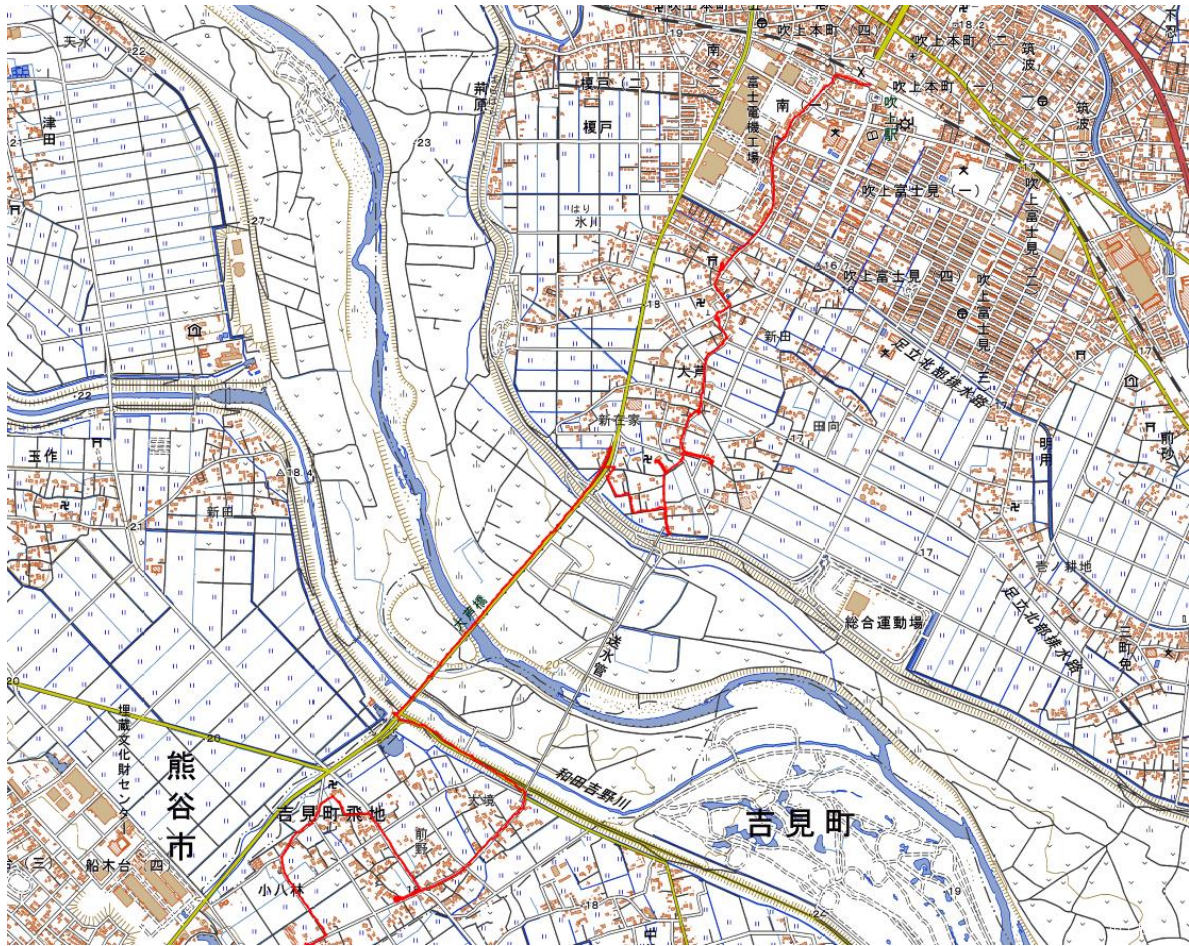
写真は2019（令和元）年6月26日と9月20日と今回のものを使用。

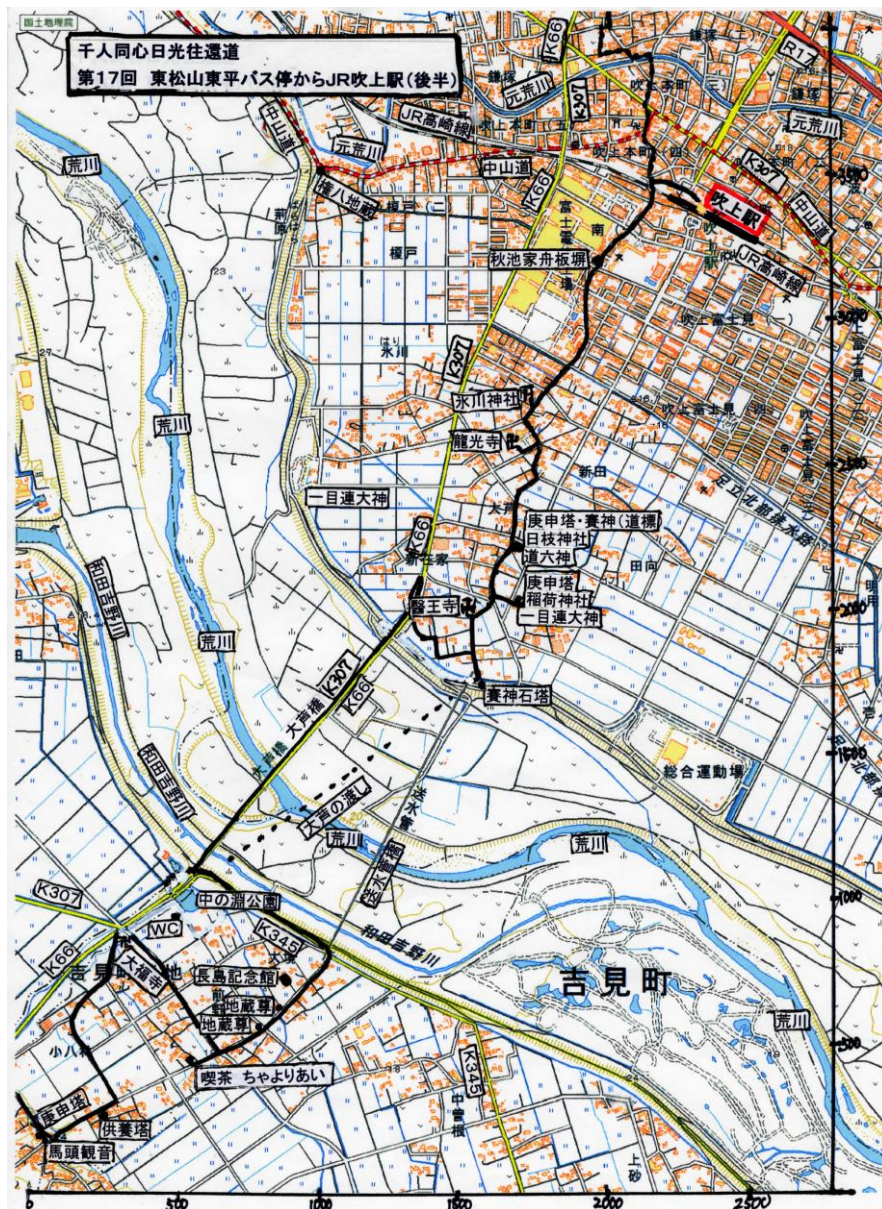
GPS

第17回 前半



第17回 後半





日光脇往還（千人同心街道、日光火の番街道）

八王子千人町から日光神橋＝約156km

宿場：拝島宿、箱根ヶ崎宿、二本木宿、扇町屋宿、黒須宿、根岸宿、高萩宿、坂戸宿、高坂宿、松山宿＝ここまでは大山街道八王子道ウオークで実施済み（実施日は下記に掲出）

吹上宿、忍宿、新郷宿、川俣宿、館林宿、天明宿（ここで例幣使街道と合流）

八王子千人町から栃木県佐野市天明宿まで約90km。

例幣使街道：天明宿、富田宿、栃木宿、合戦場宿、金崎宿、楡木宿（ここで壬生通りと合流）、鹿沼宿、文挟（ふばさみ）宿、今市宿（ここで日光街道と合流）

日光街道：鉢石宿、終点・日光坊中。

既実施日

松山宿—2020（R02）年6月17日（水）

高坂宿—2020（R02）年10月21日（水）

坂戸宿・高萩宿—2020（令和2）年11月18日（水）

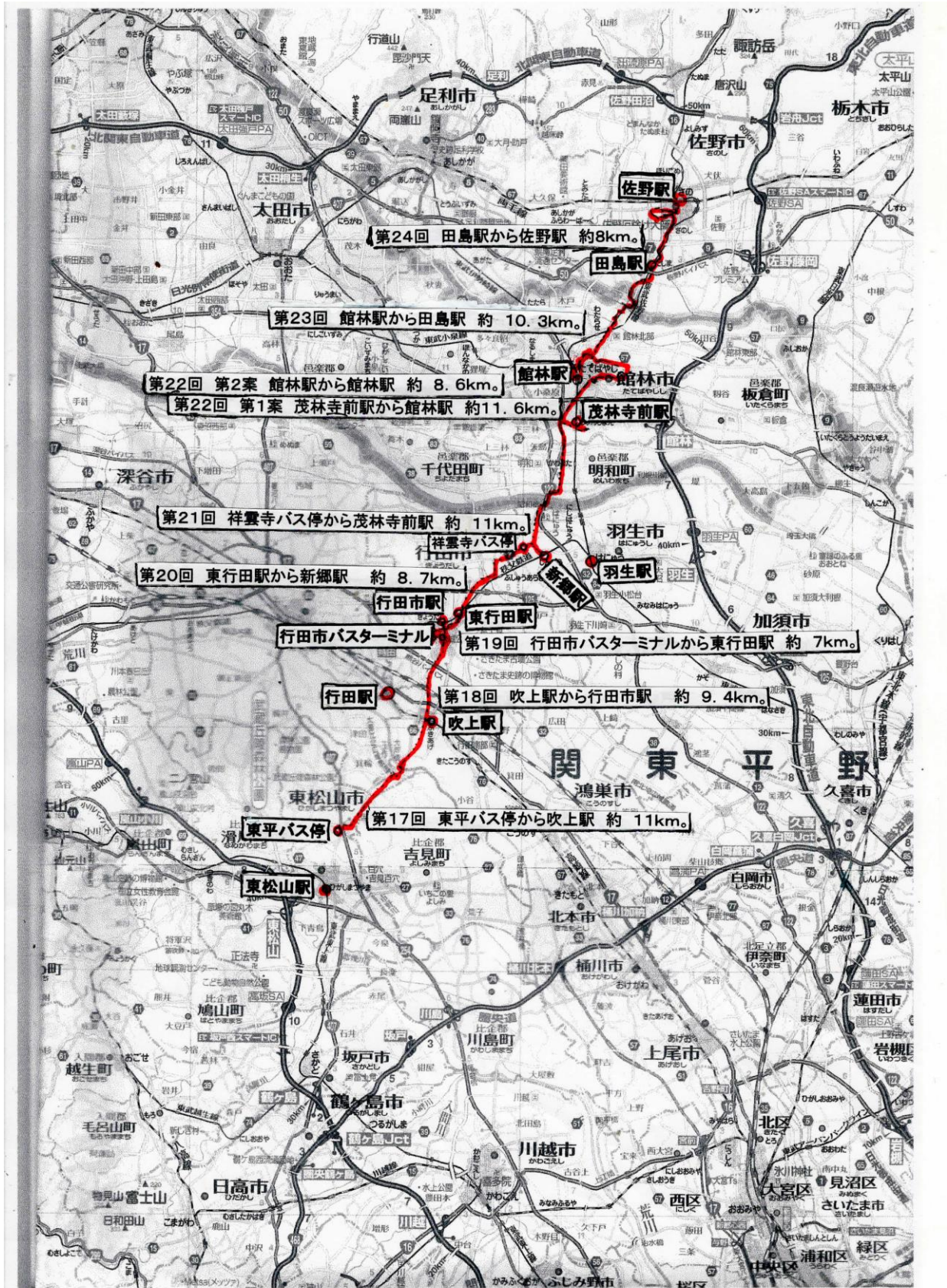
根岸宿・黒須宿—2020（R02）年12月16日（水）

扇町屋宿・二本木宿—2021（令和3）年10月20日（水）

箱根ヶ崎宿・拝島宿—2021（令和3）年11月17日（水）

拝島大師～千人町（西八王子駅）—2021（令和3）12月15日（水）

今度のウォークは大山街道八王子道から分かれる東松山市東平バス停から例幣使街道との合流点・天明宿（佐野駅）までを歩く。



今日は東平バス停から吹上駅を歩く。



東松山駅バス停2番乗り場で9時30分発熊谷駅行のバスに乗り、東平バス停で降り（9：42）、  
県道66号線を進む。すぐ左手に**覚性寺薬師堂**がある。

2020（令和2）年3月18日に訪れなかった覚性寺本堂を参拝。



県道脇の薬師堂に戻る。

県道の右側を3・40m進むと、右に入る道があり、その角に「**地藏尊と馬頭観音**」がある。（9：51）



「地藏尊」は安永九年（1780）の建立で道標を兼ねていて「右きやうたみち、左くまかやみち」とあるらしいが確認出来ない。右の「馬頭観音」は文化十年（1813）の造。



この右に入る道が「千人同心日光往還道」である。直ぐ先の国道407号線に架かる歩道橋を渡り、横断歩道で県道66号線を渡り右折。



200m程の「トーゼミ fit」の十字路を左折。この直ぐに右に曲がる道が旧街道。道なりに進むと「熊野神社」の前に出る。（10：00～03）



### 熊野神社

御祭神は不明。由緒：天慶三年（940）に東国で反乱した平将門を追討するために平重盛と共に都を発った藤原秀郷は、上州碓氷峠まで進んだところで夢でのお告げにより当地を訪ね、一株の松の根元から紫雲が湧き上がっているのを見て、持っていた鏑矢をその根元に立てて仮に熊野神社を祀った。これが当社の創祀であると伝えられる。（「埼玉の神社」より）《旧中山道碓氷峠に熊野神社がある》

境内に「石橋供養塔」があるが、これは神社の北東を流れる小川に架けた橋を供養したものか。



熊野神社を出て左20m位の左へ入る道がある。この道は千人同心日光往還道と思われる。直ぐに県道66号線にでるので左折。月中川を渡ると上り坂となる。鈴木牛乳店から約200mで右に入る道があるY字路分岐から240m程の県道の右側の住宅の敷地の北角に「道標を兼ねた馬頭観音」の石柱がある。(10:17~19)



刻まれた文字は判読できない。(小生に古文字を読む能力がないため)

ダラダラと450m程進んだ左の小川土木の看板の下に「馬頭観音」がある。



この先で道はY字に分かれる。旧街道は、右の道を行くのだが横断歩道が無いので左の県道66号線を進む。

120m程で横断歩道を渡り、直ぐ横断歩道で右折し、少し(20m弱)戻って左折。直ぐにY字の右の道(旧街道)に出るので左折。その角に「地蔵堂」があり、中に地蔵尊と如意輪観音が祀られている。(10:28)





少し登ると下り坂になる。地藏堂から460~70m進んだ左に道路改修の碑があり、その左奥に「春日神社」がある。(10:37~51)



### 小八林春日神社

当春日神社のある熊谷市小八林（こやつばやし）地区は熊谷市の最東端で、且つ最南端に位置する。地区の名をとり「小八林春日神社」という。ご祭神は天児屋根命。

この春日神社の参道入口に「一の鳥居」があり、脇には多数の石碑や石灯籠があり、「大鳥居改築祈念碑」には、神社創建や千人同心との関わり等が刻まれている。長い参道の途中に二の鳥居があり、階段を上った奥に社殿がある。また、合祀された社が祀られている。



一の鳥居



鳥居脇の石碑や石灯籠



二の鳥居





鳥居の脇に「大鳥居改築記念碑」がある。この碑には、神社創建や千人同心とのかわり等が詳しく刻まれているとのこと



#### 『大鳥居改築記念碑文』

古くより、小八林村は谷林とも称し、中央台地を本村、西南台地を大明神又は原、東北を川原と呼び、永禄の頃北条氏の所領であったが後、徳川幕府の天領となり、下って古河藩の領地として明治維新を迎える。なお、付近の丘陵地帯には、弥生時代の住居跡、円山遺跡等があり、又、平安時代には、低地においては牧場があったり民の営みがなされた地である。この由緒ある台地北谷に、村民の守護神として天児屋根命を祭神とする春日大社を建立し、信仰してきた。

この神域は面積約六百坪、周囲は広大な山林に守られ、江戸時代には日光街道に面し、八王子千人同心の往来せし重要な地であった。しかし、この付近の道は大明神坂と呼ばれ、急坂な難所であった。これを大正十一年、時の村長長島甚助氏が、巨額の私財を投じ、新しい安全な道路を完成した。また神社の「一の鳥居」は、延享の一戊辰年の仲夏に建造された高さ一丈四尺六寸の華麗な檜造りの大鳥居であり、その後再三の天災に遭い、文政五年および安政三年と再度の修理を加え現在に至る。たまたま本年四月の突風にて倒れた大木により倒壊せり。

これを憂いて氏子一同あい計り大鳥居の建設となり七月旧来の地に再建せしものなり。ここに碑を建て来歴を後世に伝えるものである。(以下略)



境内社



《明治迅速図》左下の逆コの字が大明神坂  
又、図下部の18.89の所から旧街道は北に向  
かい、大福寺の脇を通っていることが分かる。

神社の前を通り、直ぐの丁字路を右に進む。3～40m進んだ右側の笹の中に「庚申塔」がある。



道を右に曲がると道路に合流する。その合流点の右側に「庚申塔」や石塔があり、(10:55)



5・6m先には「馬頭観音」が2基佇んでいる。



左折して200m弱の右側に道標を兼ねた「供養塔」があり、「北日光山行田道 南よしみくわんおん道」と刻まれている。



この辺りから旧街道は北に向かっていたが、今は農地改良のため消滅している。

供養塔の4～50m先で左折して旧街道に近い道を進んで行くと大福寺がある。大福寺には庚申塔がある。(11:11)



大福寺



大福寺の庚申塔

大福寺を出て舗装道路を南東に向かい、信号交差点を右折。100m程に昼食場所「ちゃよりあい」がある。(11:21～12:18) 昼食し休憩をとる。



旧街道から分かれて直進の道をとる。

直進すると途中で地蔵尊がポツンと立っていてその先にも「地蔵尊」が祀られている。



直ぐ先左手に「長島記念館」がある。ここには熊谷市ゆうゆうバスの乗り場があり、2時間に1本位熊谷駅へ出ている。



「長島記念館」は、埼玉銀行頭取・会長を勤めた故長島恭介の遺志を継承し、埼玉県の文化興隆を目的に、恭介の生家を利用して開設された記念館。川合玉堂、横山大観、中川一政等の作品のほか、渋沢栄一の書や日本刀などを展示。今回は寄らなかった。



先に進むと直ぐに荒川の土手に突き当たる。(12:26) 見上げる高さに水道用水の送水管橋が荒川を横切っている。この少し上流が「大芦の渡し」があった所である。



堤防上の道を上流へ進むと大芦橋西詰に出る。大芦橋の歩道は左側(上流側)にしかない。県道の手前約80mの左斜めに堤防を下る歩道を進み県道を潜ると直ぐ右に階段があり県道に出る。



大芦橋は全長1016mである。橋は、並走している和田吉野川と荒川に架かっていて、歩道は上流側にしか無い。



上流側、和田吉野川



12:42 鴻巣市に入る。



ものすごい風の中、約14分掛けて渡る。(12:38~52)

荒川左岸の堤防上は工事のため、迂回して鴻巣市側の送水管橋の塔の脇にある「賽ノ神」の石塔に向かう。(13:02)



賽ノ神

道なりに200m弱進むと道路のぶつかり、その左角に「**醫王寺**」がある。(13:06)



### 醫王寺

真言宗豊山派の寺で、山号を瑠璃山。本尊は薬師如来。創建は不詳。

醫王寺の参道前を進み、街道は(変則十字路)突き当りを左に行き、次の右への道を進む。10mで右折して110m程の右への道の左角に「**一目連大神**」がある。(尚、当大芦地区にはもう一つ、計二つ一目連大神が祀られている)(13:13)



隣には、**稻荷神社**と思われる祠と**庚申塔**がある。

**一目連大神** (いちもくれんおおかみ、ひとめむらじのおおかみ)

一目連大神の祭神は、「天目一箇神(あめのまひとつのかみ)」で、天照大神の第3皇子である天津彦根命の御子神。(祭神として天津彦根命を祀った多度大社本宮の隣にある別宮一目連神社には天目一箇神が祀られている)

この神は片目で『日本書紀』では作金者(かなだくみ)として、大国主命に奉仕したり、天照大神の岩戸隠れのときには刀や斧を造って奉じた神である。代々鍛冶を職務としたもので、古来金工や鍛冶の信仰を集めた。一方で鍛冶には水、火、風が必要で、天目一箇神はそれらの支配神とも考えられ、父神である天津彦根命と共に、天候を司る神と仰がれた。

全国的には数少ないこの神が二ヶ所に祀られている大芦地区は特殊な村といってもよい。



旧街道に戻り右折して道なりに右カーブしながら160m強進んだ右側に「道六神（道祖神のこと）」と「日枝神社」の祠が並んでおり、横には「安産子育山王社」と刻まれた石塔がある。その先には道標を兼ねた「(表) 庚申塔、(裏) 賽神」の石柱がある。庚申塔（賽神）の側面には「右 松山道 左五反田かし」とある。(13:19~22)







旧街道を右・左と曲がりながら300m強進んだ所に公園があり休憩をとる。(13:28~35)  
公園の隣に「龍光寺」がある。



### 龍光寺

龍光寺は曹洞宗の寺。創建その他不詳。当山に「嘉禎(かてい)二年(1236年)の板碑」があるとのことだが何処にあるか判らない。

龍光寺の東側を進み、十字路を右折した先の左手に「氷川神社」の参道がある。(13:39~42)





### 氷川神社

大芦村の鎮守として祀られきた社で、祭神は**素盞鳴尊**。創建は不詳。明治六年に村社となり、明治四十年には、字田向（たじかい）の**雷電社**、字土橋の稲荷社とその境内社八坂神社、字三人野（さんにんの）の稲荷社・諏訪社、字新在家（しんざいけ）の蠶養社・**雷電社**・神明社、字氷川（はりかわ）の**雷電社**・大天白社・神明社、字台の浅間社、字中内出（なかつで）の賽神社の計十三社を合祀した。

当社には、鴻巣市指定有形文化財の嘉永三年（1850）に奉納された「算額」がある。

素盞鳴の高天原での行いは暴風雨の被害を示すと考えられ、素盞鳴の「スサ」は荒れすさぶの意として、嵐の神・暴風雨の神とする考えがある。その素盞鳴尊を祀った「氷川神社」には近在から「雷電社」を合祀しており、「一目連大神」と共に、この地方での暴風雨への恐れが強かったことがうかがわれる。

また、境内の「氷川神社御由緒」掲示板には次のように記されている。

『当地は元荒川と荒川に挟まれた低地に位置し、集落は旧河道の自然堤防上にある。また、かつて当地南西の荒川には大芦河岸（おおあしかし）があり、古くから日光脇往還の渡船場として栄えた。村の開発の年代は明らかでないが、慶長十二年（1607）十月の「足立郡箕田村内大芦村御検地水帳」（堀口家文書）が残る。（後略）』

氷川神社から旧街道を道なりに560m程進んだ小川に先に黒色の「秋池家の舟板塀」がある。

（13：51）この塀は舟材で造られた塀で、秋池家はかつて大芦河岸の船問屋で、数十艘の舟を有していたという。





旧街道である道を道なりに進み、J R 高崎線の手前で右折すると吹上駅である。1 3 時 5 7 分到着。



1 4 時 2 6 分の湘南新宿ラインの列車に乗る。

以上